

今月は次世代リーダー育成道場の留学を通して制作する大きな課題である、ゼミナール研究のレポート作成に向けていろいろな調査、経験をしました。レポートは次世代生が一人ひとり異なるテーマを設定し、それについて留学前と留学中の研究を通して作成するもので、私はカナダの先住民について学校教育ではどのように扱われているのかを調査し、日本のアイヌ・琉球についての教育と比較してより良いものにするにはどうしたらいいのか考えるレポートを作成しています。

私は元々オーストラリアに行くコースにいたのですが、留学に行ける期間の関係で事前研修期間中に北米コースに変更をしました。そのため元々考えていた研究テーマから急遽変更という形になり、なかなかカナダで行う研究の内容が決まりませんでした。その中で一つの社会問題となっている先住民の人々の現状について知り、問題解決をするためにはどんな取り組みが有効なのかという観点から教育に注目をして新たなテーマを作りました。

今月はまず先住民の人々について知るために、先住民の歴史について学ぶ Aboriginal Study の担当をしている先生に直接お願いをし、放課後4回ほどに分けて教科書で扱っている部分について個別の授業を行ってもらいました。本来ならばこの Aboriginal study はひとつのクラスとして取ることができるのですが今年度は希望する人数が少なく授業自体がありませんでした。

個人授業を受けるとともに、その先生に教えてもらった、車で一時間ほどの距離にある大学で行われた先住民の人々によるイベントに参加をしました。主に伝統的なセレモニーや食べ物、ストーリーテリングなどを体験できるブースがあったり、大きな講堂で新たな先住民の世代の人々による社会問題についての取り組みについての話を聞くことができたりしました。実際に先住民の人々に触れることが初めてだったので、より彼らの存在を実感することができた良い機会だったと感じます。

また、カナダの歴史の中でも特に残酷であったレジデンシャルスクールというものがあるのですが、実際にその学校に通っていた人に直接お話を聞くことができました。レジデンシャルスクールは、ヨーロッパから渡ってきた人々が徐々に先住民の人々の土地を無断で支配していき、その中で先住民の子供たちに英語とキリスト教の心得を教えるために作られた住み込みの学校で、1800年代後半から1970年ごろまで学校として機能していました。主に4歳ごろの子供たちが各家から回収され、16歳までその学校から出ることができずに、白人の人々と同様となるための教育を強いられました。虐待が行われていた事実があり、食事も満足なものが与えられなかったことから亡くなった子供たちがたくさんいたそうです。また、幼いころから自分たちの文化を否定され、自分たちの言語を使うことは許されなかったため、ほとんどの子供たちが自分たちの文化を知らないまま成長し、学校を卒業していきました。多くの人々が自分の家族が分からずに家に帰ることができず、そのまま町に出て働くことを強いられました。しかし、家族に巡り合うことができ自分の文化を再度学び、今に継承している人たちもたくさんいます。私がお話を聞いた方は、学校

を出てからどうしたらいいのか分からず、盗みをしたりお酒に依存をしたりを繰り返していたそうです。今は彼の生まれたコミュニティーに戻り、そこにある伝統的な品物をお店兼小さな博物館でアーティストとして絵をかいていました。彼は実際にレジデンシャルスクールで白人教師からの性被害に遭い、トラウマから抜け出すことが困難な状態がずっと続いていると言っていました。教科書を使って学んだものの実際どうだったのかのイメージを膨らませることは難しかったのですが、今回お話を聞いたことによってどれだけ彼らの人生に影響を与えたのか、同じ状況に陥った人々がどれだけたくさん居たのか考えさせられました。

今月はこのようにして先住民の人々について学び、彼らの背景や彼らについてのイメージを膨らませることができました。レポートの提出日がどんどんと近づいてきているのでそろそろ原稿に取りかかっていたいと思います。

写真は大学のイベントで建てられていたティピ (Tipi) です。主に南部に住んでいた人々が実際にティピで暮らしていたそうです。

白鷗高校14期生 次世代リーダー育成道場10期生 K・S

